Nihon Ongaku Shudan(Pro Musica Nipponia)

日本音楽集団 第94回定期演奏会

海外からの作品特集 そのII

全曲初演

'86
6月26日〔木〕7:00 p.m.
abc会館ホール〈芝公園〉

1．協奏組曲

ディヴィット・ローブ作曲

指　揮	飯森範親	二十絃箏	木村玲子
笛　独奏	西川浩平		内藤久子
尺八　I	藤崎重康	十七絃	宮越圭子
尺八　II	素川欣也		熊沢栄利子
十三絃箏	吉村七重	打楽器 I	高橋明邦
	大畠菜穂子	打楽器 II	細谷一郎
		打楽器 III	前田文男

篠笛と和楽器合奏団のための『協奏組曲』を1984年に日本音楽集団のために作りました。第一楽章はプロローグの感じで、次に三拍子の叙情的な舞曲、その後に打楽器を使っている民謡的な舞曲、最後にエピローグのような物があって、第一楽章の反響が聞こえます。

この曲は篠笛協奏的な物のシリーズの中の一つで、1982年に『霧響』を作り（初演を自分で吹いて）1984年に『森龠』。両方のために西洋弦楽オルケストラを入れて、『協奏組曲』だけは和楽器合奏団のために作った曲です。　David Loeb記　（アメリカ）

〔作曲者紹介〕

ニューヨークのマンネス大学及びカーチス大学で教える傍ら、世界中を広く歩きまわり様々な民族音楽に興味を持っておられます。特に日本楽器に関しては、その作品も多数あり御自身でも篠笛を演奏されます。前回のこのシリーズでも『和楽器室内交響曲』が演奏されました。

2．Zugvögel 渡り鳥

ユルゲン・ブットゥケヴィッツ作曲

指　揮	飯森範親
尺八　I	福田輝久
尺八　II	藤崎重康
二十絃箏	内藤洋子

渡り鳥は毎年大小の群れになって知らないうちにどこからともなく集まり、北から南へと、あるいは南から北へと季節や天候を推し量りながら旅をします。この移動はお互いを助け合いつつ平穏のうちに成し遂げられます。移動が終わると離ればなれになりますが、もしかすると次の、またその先の旅で再会するのかも知れません。

これは私たちの人生に似通っています。人は巡り合いによって、暖かい友情で結びついたり、短い間生活を共にしたりします。が、人生の様々な状況の為に離ればなれになってしまいます。そして人は別々の「大陸」に住まいながらも、またいつの日にか、渡り鳥のように相目見えることがあるのかも知れません。

この作品は、日本の友人たちへの、細やかながら私の心のプレゼントのつもりです。　Jürgen Buttkewitz（東ドイツ）バーバリッチ・順子訳

〔作曲者紹介〕

D.D.R（東独）ベルリンシンフォニー・オーケストラのファゴット奏者でもあります。ユルゲン氏との出合いは、日本音楽集団が1981年に急の曲（三木稔作曲）の初演の為にゲヴァントハラス・オーケストラに招かれて、ライプツィッヒに行った時の事です。同じ夜のプログラムの最初に彼の作品が初演されました。東山魁夷画伯

の絵に触発されて作曲したという作品で、我々との出合いにより日本楽器にも非常に興味を持たれたということでした。趣味は盆栽。

3．軌(わだち)

喜多嶋　修作曲

笛	西川浩平	
尺八	三橋貴風	
三絃	田中悠美子	山本哲子
琵琶	半田淳子	
二十絃箏	吉村七重	大畠菜穂子
十七絃	内藤洋子	内藤久子
打楽器	堅田啓輝	細谷一郎

私達の生命、宇宙のエネルギーは物質的にも精神的にもたえまなく歴史を展開しつづけている。ある時は激しくある時は穏やかに…。そしてそこにはいつも「軌(わだち)」が生まれる。世の中の移り変わりは「光陰矢のごとし」で西洋と東洋の文化結合も例外ではない。私はここにわれわれ東洋のもつ「エレガンス・オブ・シンプリシティ」と「間」の中に西洋のリズムの魔術を裏に表に駆使してみた。我が国の誇るべき「日本音楽集団」の熱意と実力によってまた新しい『軌(わだち)』が生まれようとしている。

喜多嶋　修記(アメリカ在住)

〔作曲者紹介〕

もと「ランチャーズ」のメンバーで、現在ロスアンゼルスで、作曲、演奏活動をなさっています。彼の作品には時折、和楽器が登場しますが、その新鮮な響きにとても魅力を感じて曲をお願いしました。当団の堅田啓輝は、幾度かレコーディングに参加していますが、喜多嶋氏の和楽器に対するこだわりのない純粋なアプローチにはいつも「ハッ」とさせられるそうです。

4．KANGEN

スラマッ・スジュクール作曲

尺八 I	三橋貴風	胡弓	篠崎正嗣
尺八 II	福田輝久	打楽器 I	尾崎太一
尺八 III	素川欣也	打楽器 II	高橋明邦

『KANGEN』には二つの意味があります。
JAPANESE(日本語)では「管絃」つまり「楽器」という意味、そしてJAVANESE(ジャワ語)では「憧れ」という意味です。

この曲の流れと基調(テクスチャー)は、ガムラン音楽にある〝Kodok Ngorek(コドック ニョレック)〟(蛙の鳴き声)と呼ばれる楽理論に基づいています。そして〝Kodok〟から「KA」をNgorekから「NGEN」の音韻を取って名付けました。

この曲の目指すところは、ただ単に日本の伝統楽器の音を使うことではなく〝Kodok Ngorek〟というガムラン音楽の楽理論を魂の表現として応用したことです。

『KANGEN』は日本の伝統楽器が持つ「心」と、ジャワの人々の時間観念とを合わせてみたいという私の考えを適用した曲となります。また〝Kodok Ngorek〟は古くから良く知られているガムランの曲名でもあります。 Slamet A.Sjukur(インドネシア)バーバリッチ・順子訳

1984年にニュージランドのウエリントンで行なわれた、アジア・パシフィック・フェスティバルで、同フェスティバルに招かれた、三橋貴風、吉村七重両名が出合ったのがきっかけで今回の委嘱をお願いいたしました。その際に双方で思い出したのですが、実は音楽集団との出合いは1980年1月のジャカルタ公演の折でした。その時のシンポジウムで彼と我々のメンバーが、現代音楽に関する討論をたたかわせたのが非常に印象に残っています。

5．和

叶　小钢作曲

指揮	飯森範親	
能管	西川浩平	
篠笛	竹井　誠	
尺八 I	三橋貴風	
尺八 II	福田輝久	素川欣也
尺八 III	藤崎重康	米沢　浩
太棹三味線	田中悠美子	
細棹三味線	山本哲子	
薩摩琵琶	半田淳子	
筑前琵琶	田原順子	
胡弓	篠崎正嗣	
二十絃箏	吉村七重	内藤洋子
十三絃箏	木村玲子	大畠菜穂子
十七絃	宮越圭子	内藤久子
打楽器 I	尾崎太一	
打楽器 II	高橋明邦	
打楽器 III	細谷一郎	
打楽器 IV	前田文男	

『和』と題した総譜をお送り致しました。

日本の楽器には余り詳しくありませんので、皆様がこの曲を演奏するのは難しい事になるかも知れません。日本音楽集団の方々が、この曲を気に入って下さる事を心から願っております。

作曲者が伺えない為に、練習の段階での問題が生じるかも知れません。そしてそれが音楽の仕上がりに影響を及ぼす事を少々心配しておりますが、すべてが順調に進められる事を祈っています。

では、演奏会の御成功を心からお祈りします。

また『和』という題についての説明は、ことさらにはありませんが、これは日本音楽集団の為に作曲したものですので何卒御了承下さるようお願い致します。　　叶　小钢（手紙より）

叶氏もやはりアジア・パシフィック・フェスティバルに参加していました。同フェスティバルの中で行なわれた「オーケストラのタベ」に出品された彼の作品には強い印象をうけました。彼自身、日本の楽器には大変興味を持っており、その曲中にも日本の楽器を彷彿とさせる表現がみられ、今回の私共の委嘱に対しても快良く引き受けて下さいました。

1955年生まれで現在、中国で最も期待されている若手作曲家の一人です。今年は中国のバレーの為の音楽を、日本の作曲家池辺晋一郎氏と合作をする予定もあるようです。

御　挨　拶

比の度の企画「海外からの作品特集」の第1回目が行なわれたのは、1981年6月12日の第65回定期の折でした。

- Yu(幽) …H.J.コルロイター　作曲(西ドイツ)
- ワールズ…ネイル・マカイ　作曲(ハワイ)
- 和楽器室内交響曲…ディヴィッド・ローブ　作曲(アメリカ)
- 交織…ネプチューン・海山　作曲(ハワイ)
- セイタ…ペール・ヘンリック・ノルドグレン　作曲(フィンランド)
- 十面埋伏…王　燕樵　作曲(中国)

以上6曲がプログラムとして演奏されました。この間約5年が経ちましたが、現在邦楽の世界に於いては海外の人々の手による作品が、演奏される事自体はさほど珍らしい事では無くなって来た様です。更に演奏者の中にも外国出身の方が除々に増えつつあり、その様な方々ばかりが出演するコンサートが企画される様になって来ています。

良く云われる事ですが「真に民族的なものが真に国際的である」と。けれどもそれは単に民族的なだけでは国際的とは言えないかも知れません。これから未来へ向かって、私達の音楽の世界は演奏者のみならず、作品の面に於いてもより多くの交流を計り、単に珍らしい日本の民族音楽と云う様な評価の枠を越えて、その土台に共通言語を持った上での真の国際化を目指して行かねばならない状況にあるのではないでしょうか。　(三橋貴風)

客演プロフィール

飯森範親(指揮)

1963年鎌倉生まれ。4歳よりピアノを始め、同時に音感教育を受ける。12歳よりクラリネットを始める。15歳より指揮を始め、1982年桐朋学園大学指揮科入学。指揮を森正、高階正光、小沢征爾、秋山和慶、尾高忠明、ジャン・フルネ各氏に師事。ピアノ、理論を間宮芳生氏に師事。1985年第20回民音コンクール指揮部門(指揮部門は7回目)において第2位(1位なし)入賞。1986年2～3月にかけて入賞記念コンサートとして、大阪フィル、新星日響、名古屋フィルなどを指揮。

篠崎正嗣(胡弓)

4歳よりヴァィオリンを始め、篠崎弘嗣、斉藤秀雄両師に師事。1980年ソロアルバム「MASA－MASA」を発表。1985年にキーボード、パーカッション、笛と共にグループ「風雅頌(ふうがこう)」をはじめ、ヴァイオリンの他に胡弓も弾く。現在、レコーディング、作曲等幅広く活躍。ソロアルバム「VIRGOINDIGO」を近々発売。

進行　田村拓男／舞台　中島　隆

1 協奏組曲 ―― ディヴィッド・ロープ 作曲 （アメリカ）

2 Zugvögel 渡り鳥 ユルゲン・ブットウケヴィッツ 作曲 （東ドイツ）

3 軌（わだち） ―― 喜多嶋 修 作曲 （アメリカ在住）

4 KANGEN ―― スラマッ・スジュクール 作曲 （インドネシア）

5 和 ―― 叶 小钢 作曲 （中国）

―― 1級4級小型船舶操縦士免許教習所 ――

東京海技学院

〒150 東京都渋谷区渋谷2-14-13 岡崎ビル
（東邦生命ビルとなり）☎（03） 407－5256

ヨット・ボートのことなら

〔株〕フィンセール・マリン

〒150 東京都渋谷区渋谷2－14－13
☎(03) 407－5200㈹ FAX (03) 407－5889

海を愛するあなたのクラブ

くろしお・よっと・くらぶ